



EXCELLENCE IN COMMUNICATION

2021年10月期

決算説明レポート

1. 2021年10月期 業績サマリー
2. 2022年10月期 業績予想
3. 成長ビジョン～これからの取り組み～
4. 株主還元
5. 参考資料

サマリー

■ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

- ・第1四半期は新型コロナウイルス感染症の影響で販売促進用広告制作での売上落ち込みが大きかったが、第2四半期以降は回復基調となり、通期では前期比増収増益となった。

■ 2021年10月期 業績サマリー

- ・売上高25.4億円。営業利益2.2億円。第1四半期は新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったが、第2四半期以降状況が回復し、積極的な営業展開により前期比増収増益。
- ・「リアル領域」と「デジタル領域」を融合させたビジネスモデルへの挑戦として、デジタルサイネージ事業、デジタルプロモーション事業を開始。
- ・東京本社を移転し、横浜ファクトリーを増床して首都圏エリアの営業機能と生産体制を強化。
- ・さらなる成長と企業価値向上に向けて東京証券取引所市場第二部へ市場変更を実施。

■ 2022年10月期 業績予想

- ・新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、引き続き回復傾向。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響が全くなかった2019年10月期の水準までの回復には至らないと予想。
- ・このような前提の下、売上高27.5億円。営業利益3.0億円を予想。
- ・期末配当金は31円を予想。



株式会社ビーアンドピー代表取締役社長の和田山でございます。

本日は、当社2021年10月期決算説明をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

それでは、当社2021年10月期の決算説明を始めさせていただきます。



本日は、ご覧の5つのピックアップに合わせてご説明させていただきます。

1. 2021年10月期 業績サマリー

1 2021年10月期 業績サマリー

はじめに、2021年10月期の業績サマリーをご説明申し上げます。

2021年10月期 業績サマリー



市場環境

- 緊急事態宣言やまん延防止措置等によって経済の落ち込みが大きかったが、ワクチン接種が進み感染者数が減少傾向となり、経済も上向きに変化。徐々に回復の兆し。

業績

売上高	営業利益	経常利益
2,549百万円	222百万円	271百万円
前期比：4.4%増	前期比：6.9%増	前期比：28.2%増

- コロナの影響からの回復基調に加え、積極的な営業が功を奏し、前期比で増収増益。
- 東京本社移転、横浜ファクトリーへの製造部門集約を実施し、首都圏エリアでの営業機能強化と生産性向上策を推進。
- 経常利益は東京本社移転に伴う受取補償金により一時的な増加。

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

3

2021年10月期の実績は、売上高25億4,900万円、前年比4.4%の増収、営業利益2億2,200万円、前期比6.9%の増益、経常利益2億7,100万円、前期比28.2%の増益となりました。

当期は新型コロナウイルス感染症の影響が継続しており、一部の地域において緊急事態宣言の発出や、まん延防止等重点措置が適用されたことにより、経済の落ち込みが大きかったものの、ワクチン接種が進んだことなどから感染者数が減少傾向となり、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復基調に加え、積極的な営業が功を奏し、前期比で増収増益の結果となりました。

また、8月に東京本社移転、横浜ファクトリーへ製造部門を集約させ、首都圏エリアでの営業機能強化と生産性向上策を実施いたしました。

なお、経常利益は東京本社移転に伴う補償金の受け取りがあったため、前期比28.2%の増加となりました。

2021年10月期 P/Lサマリー



緊急事態宣言やまん延防止措置等の影響を最小限に留め、前期比で増収増益。業務効率化やコスト削減を実行し、利益率も上昇。

(単位：百万円)	2020年 10月期実績	2021年 10月期実績	対前期 増減率 (%)
売上高	2,441	2,549	4.4%
売上総利益	949	1,001	5.4%
売上総利益率	38.9%	39.3%	—
販売管理費	742	778	5.0%
営業利益	207	222	6.9%
営業利益率	8.5%	8.7%	—
経常利益	211	271	28.2%
経常利益率	8.7%	10.6%	—
当期純利益	140	189	35.0%

©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved

4

次にP/Lのサマリーです。

先にご報告いたしましたように、当期の売上高は25億4,900万円、営業利益は2億2,200万円、経常利益以下はご覧の通りで新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった前年同期と比較して増収増益となりました。

その他指標



コロナ禍においても一定の利益を確保し強固な財務基盤を維持。自己資本比率は、86.3%と80%台を維持。

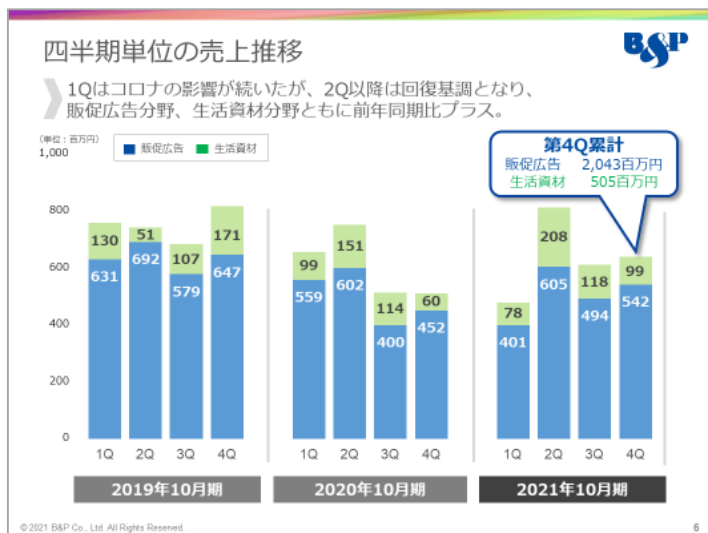
(単位：百万円)	2017年10月期	2018年10月期	2019年10月期	2020年10月期	2021年10月期
純資産額	1,421	1,825	2,588	2,613	2,752
総資産額	2,097	2,451	3,160	3,025	3,191
自己資本比率	67.8 %	74.5 %	81.9 %	86.4%	86.3%
自己資本利益率	21.1 %	34.3 %	14.1 %	5.4%	7.1%

*2016年11月に株式会社ニールを買収。

©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved

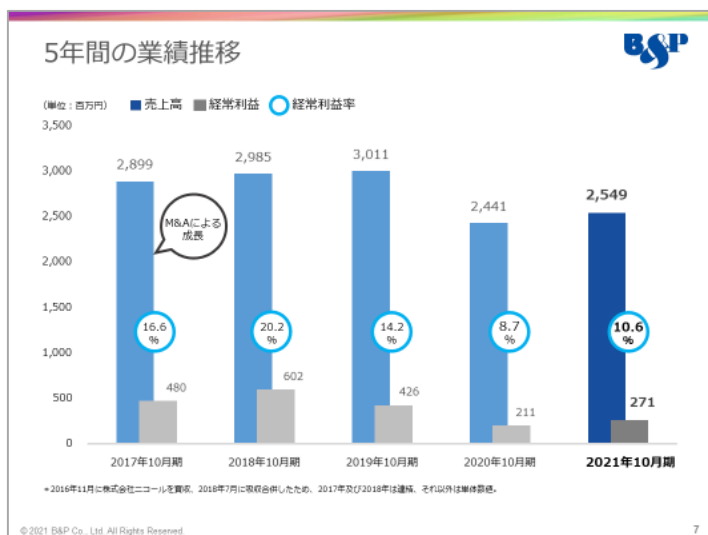
5

次に財務指標に関しては、コロナ禍の経済不安な状況でも一定の利益を確保しており、自己資本比率は、86.3%と強固な財務基盤を維持しております。



続きまして、各四半期の売上の推移でございます。

第1四半期におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、新型コロナウイルス感染症の影響が全くなかった前期比で減収となったものの、第2四半期以降は需要の回復の兆しが見られ、販促広告分野での年度末需要獲得、生活資材分野の壁紙案件の受注に加えまして、東京オリンピック・パラリンピック関連の特需などがあったことから、前期を上回る売上を達成することができました。



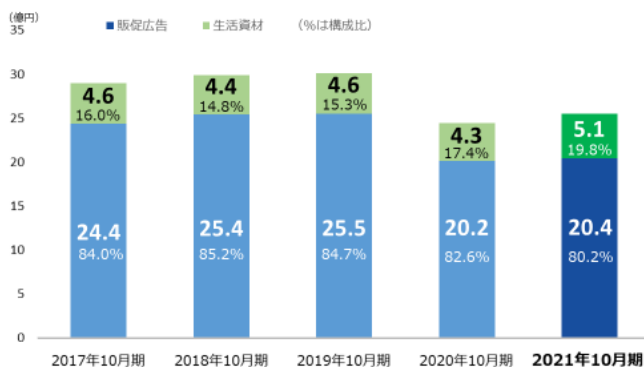
次に5年間の業績推移でございます。

前期においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、減収減益となりましたが、当期におきましては、先ほどもご説明いたしました通り、第2四半期以降は需要の回復の兆しが見られ、前期比増収増益となりました。

業績状況 販売体制別売上推移



販売促進用広告はコロナの影響を大きく受けた一方、生活資材はホテルの壁紙等の受注等により堅調に売上高を伸長、例年に比較して構成比が上昇。



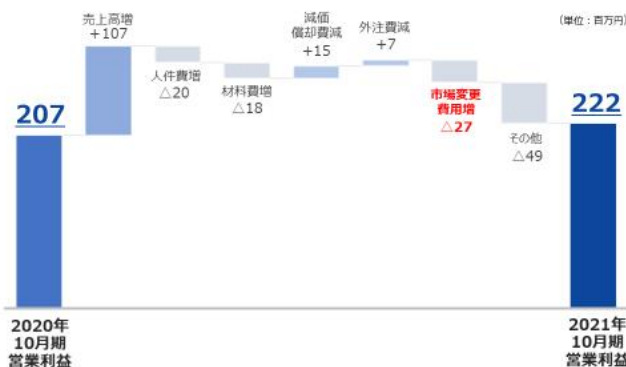
©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に販売体制別の売上推移でございます。
販売促進用広告分野においては新型コロナウイルスの影響が依然として続いており、売上高は前期比横ばいとなりましたが、生活資材分野についてはプリントシール機案件の安定的な受注に加えて、ホテルの壁紙等の受注等により、過去最高の売上高となりました。

利益増減分析



市場変更による一時的な費用が発生したが、コスト意識の定着、生産効率化に努めた結果、前期比14百万円（+6.9%）の増益。



©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に利益増減分析についてご説明申し上げます。

当期は市場変更に関連する一時的な費用が発生したものの、コスト意識が定着し経費削減に努めた結果、営業利益は前期に比べて1,400万円の増益となりました。

貸借対照表



(単位：百万円)	2020年 10月期	2021年 10月期	増減額		2020年 10月期	2021年 10月期	増減額
流動資産	2,778	2,930	+152	流動負債	284	309	+25
現金・預金	2,264	2,331	+66	買掛金	121	133	+12
売掛金	374	404	+29	固定負債	126	128	+1
その他	138	194	+55	負債合計	411	438	+27
固定資産	247	261	+13	純資産合計	2,613	2,752	+139
有形固定資産	74	86	+12	商本金	286	286	±0
無形固定資産	47	41	△ 6	資本剰余金	276	276	±0
投資その他資産	124	132	+7	利益剰余金	2,051	2,190	+139
資産合計	3,025	3,191	+166	負債純資産合計	3,025	3,191	+166

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

10

次に貸借対照表の各数値でございます。
前年期末に比べて、特段大きな変動はございません。

TOPICS



2021年10月29日

東証の市場再編による スタンダード市場への移行を視野に 東証・市場第二部へ市場変更

2022年4月の市場再編において「スタンダード市場」への移行を視野に、東証二部への市場変更を行いました。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をコミットすることで、今後も皆様方のご期待に沿えるよう、インクジェットプリント事業を軸に、デジタルサイネージ事業、デジタルプロモーション事業を本格的に展開して、さらなる成長と企業価値の向上を目指してまいります。



© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

11

当期のトピックスといたしまして、当社は2022年4月の市場再編において「スタンダード市場」への移行を視野に、2021年10月29日に東証二部への市場変更いたしました。

「持続的な成長」と「中長期的な企業価値の向上」にコミットすることで、今後も皆様方のご期待に沿えるよう、インクジェットプリント事業を軸に、デジタルサイネージ事業、デジタルプロモーション事業を本格的に展開して、さらなる成長と企業価値の向上を目指してまいります。

2. 2022年10月期 業績予想

次に2022年10月期の業績予想と今後の取り組みについてご説明いたします。

2 2022年10月期の業績予想

業績予想



主力事業の本格回復に加え、新たな成長戦略推進のための基盤づくりに着手し、約8%の増収、36%の営業増益を計画。

(単位: 百万円)	2021年10月期 (実績)	2022年10月期 (予想)	増減率 (%)
売上高	2,549	2,750	+7.9%
売上総利益	1,001	1,122	+12.1%
売上総利益率	39.3%	40.8%	
営業利益	222	302	+36.0%
営業利益率	8.7%	11.0%	
経常利益	271	302	+11.3%
経常利益率	10.6%	11.0%	
当期純利益	189	206	+8.9%

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved

13

2022年10月期の業績予想は、売上高27億5,000万円、前期比7.9%の増収、営業利益3億200万円、前期比36.0%の増益、その他各段階利益につきましては、ご覧の通り約10%の増益を計画しております。

業績予想の前提をご説明申し上げます。国内においては、いまだ新型コロナウイルス感染症は収束に至っておらず、新たな変異株の発生が報じられる中、国内企業の販売促進活動は抑制的であり、イベント・展示会関係に対しても一定の制限が継続し、完全な回復には時間を要することが考えられます。とはいえ、国内経済は回復基調にあり、当社の事業領域である販売促進用広告分野においても状況が好転するものと考えます。

2021年10月期第1四半期は新型コロナウイルス感染症の影響により、国内企業の販売促進活動は低調に推移し、当社もその影響を受けましたが、2022年10月期第1四半期は回復し、売上高は前年同期と比較して増加するものと想定しております。

第2四半期については、例年3月の年度末に向けて国内企業の販売促進活動が活発化するため、売上高は前年同期と同様に好調に推移するものと考えております。

第3四半期以降については東京オリンピック・パラリンピック関連の特需がなくなるものの、前年同期よりも状況が回復するため、売上高は前年同期と比較して増加を見込んでおります。

この結果、通期の売上高は前年同期を上回るものの、新型コロナウイルス感染症の影響が全くなかった2019年10月期の水準までの回復には至らないものと想定しております。

事業別重点施策

**インクジェットプリント事業** ▶リピート顧客の増加を図り基盤強化

- 営業力を強化し顧客満足度向上によるリピート率UP
- 名古屋・福岡の新規顧客開拓の加速と生産体制の強化
- インテリア内装分野の強化に向けたデジタル壁紙などの新規商材の提案
- WEB集客強化に向けたECサイトの全面リニューアルの実施
- 生産部門の高利益体質強化のための原価低減や新規設備導入と生産性向上のための業務の自動化の推進

**デジタルサイネージ事業** ▶早期収益化を目指す

- インクジェットプリント事業のリソースを活かし、販売促進広告分野、インテリア分野に対してハード機器の積極的な提案
- ハード機器販売に加えてCMSによる映像配信システムの導入提案

**デジタルプロモーション事業** ▶早期収益化を目指す

- インクジェットプリント事業の既存顧客に対してWEBプロモーションの提案
- 大手ECサイトの販売代理やECショップの運営支援だけでなく、インクジェットプリントやデジタルサイネージを組み合わせた実店舗における販促提案を行う当社最大のポイントを活かした営業活動を展開

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved

14

次に業績予想を達成するための具体的な事業部別の重点施策についてご説明申し上げます。

インクジェット事業につきましては、引き続き、超都心部拠点のメリットを最大限活用し、スピーディかつきめ細かい対応、安心感の提供に努めながら、具体的に5つの施策を実行してまいります。

一つめは、顧客対応・目標達成・育成・管理の各面での営業力を強化し、顧客満足度向上によるリピート率UPを図ります。

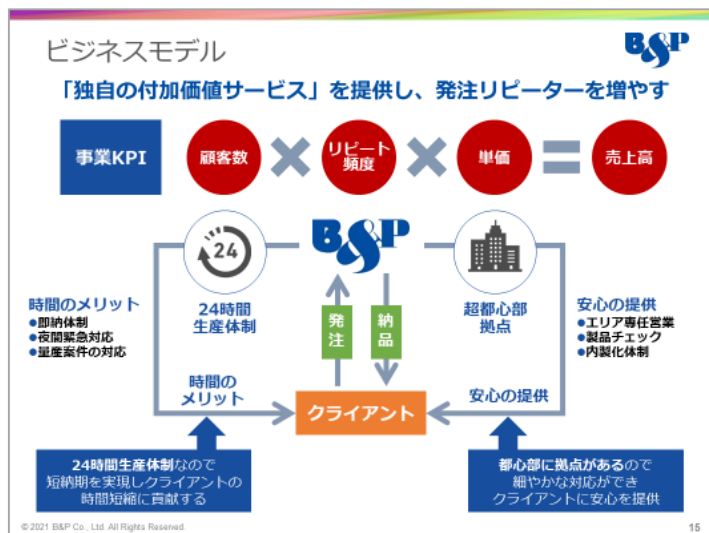
二つめに、名古屋・福岡については景気の回復に合わせて新規顧客の開拓を加速させるとともに、設備の増設による生産体制の強化を行います。

三つめに、インテリア内装分野を強化するべく、デジタル壁紙やガラスフィルム等の商材を全国に展開いたします。

四つめに、対面営業での受注に加えてWEBによる全国からの受注に応えるためECサイトの全面リニューアルの実施いたします。最後に、生産部門の高利益体質強化のための原価低減や新規設備導入と生産性向上のための業務の自動化の推進に取り組みます。

デジタルサイネージ事業につきましては、インクジェットプリント事業のリソースを活かし、販売促進広告分野、インテリア分野に対して積極的な提案を行い、市場開拓を進めるとともに、ハード機器販売に加えてCMSによる映像配信システムの導入提案を行います。

デジタルプロモーション事業につきましては、インクジェットプリント事業の既存顧客に対してWEBプロモーションの提案を行うとともに、大手ECサイトの販売代理やECショップの運営支援だけでなく、インクジェットプリントやデジタルサイネージを組み合わせた実店舗における販促提案を行う当社最大のポイントを活かした営業活動を展開し、デジタルサイネージ事業と同様に早期の収益化を目指します。



次に当社の事業KPIについてご説明いたします。

当社のKPIは、「顧客数×リピート頻度×単価」でございます。

より多くのお取引先様に繰り返し利用していただき、常に付加価値の高い商品・サービスを提供し続けることが会社を成長させる重要なポイントであると考えております。

先程ご説明いたしました事業部別の重点施策を実行しながら、3つのKPIを最大限に高めてまいります。

3. 成長ビジョン～これからの取り組み～

次に今後の成長ビジョンと実現に向けた取り組みについてご説明いたします。

3 成長ビジョン
～これからの取り組み～

VISION 

**販売促進・マーケティングをトータルサポートする
ワンストップ企業を目指します**



**インクジェットプリント事業で蓄積された
「販促ノウハウ」「生産能力」「顧客基盤」を活かし
あらゆる分野の多角的にセールスプロモーションを支援します**

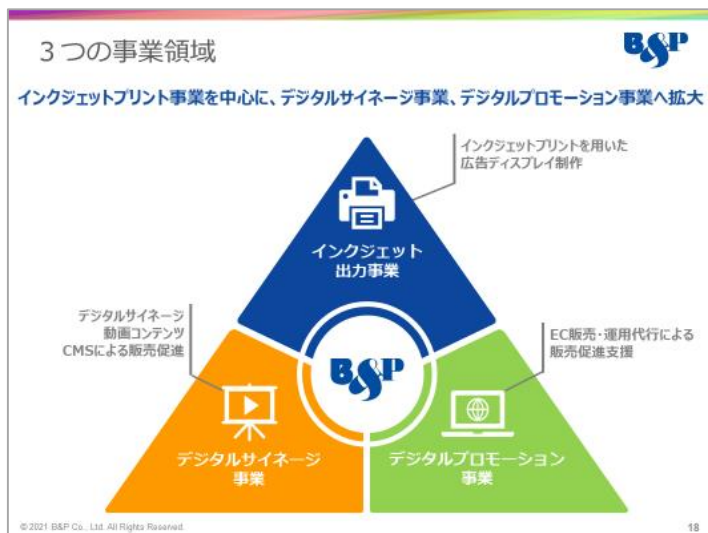
© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved. 17

当社はこれまでインクジェットプリントサービス分野において、販売促進用の広告や壁紙などのインテリア商品を提供することで幅広い市場を対象として事業を展開し、セールスプロモーションに関する実績やノウハウの蓄積により、順調に業績を拡大してまいりました。一方で、デジタル技術の進歩による広告媒体の変化、インターネットやスマートフォンの普及、SNSの拡大に伴う購買行動の変化により、セールスプロモーションの手法は時代とともに大きく変化しております。

このように時代が変容する中、インクジェットプリント事業のノウハウを活かすことのできる新たな分野として2021年10月期よりデジタルサイネージ事業とデジタルプロモーション事業を開始し、新たな事業のビジネスモデルの構築を進めております。

当社は、これまでインクジェットプリントサービスを主軸事業として、商品やサービスの販促や認知拡大の支援、インテリア商品では壁紙などで空間演出の支援を行ってまいりましたが、今後は、インクジェットプリントサービスだけにとどまらず『販売促進・マーケティングをトータルサポートするワンストップ企業』としてサービスを拡大してまいります。

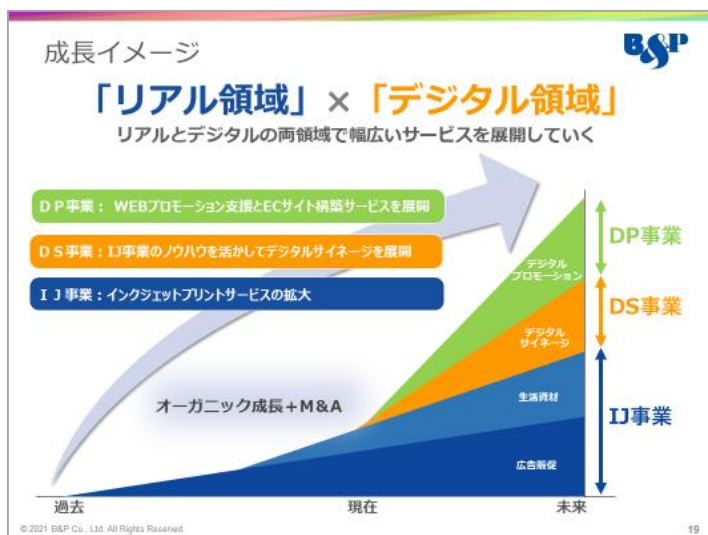
当社はインクジェットプリント分野で蓄積された「販促ノウハウ」「生産能力」「顧客基盤」を活かし、あらゆる分野に対して多角的にセールスプロモーションを支援します。



先ほどご説明いたしました通り、時代とともにセールスプロモーションの手法は変化しております。

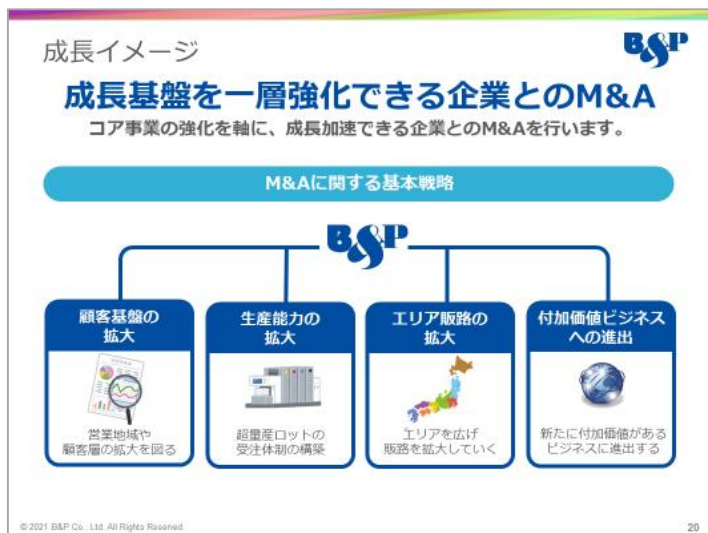
この流れに対応するべく、当社の主軸事業であるインクジェットプリント事業で蓄積した実績やノウハウを活かせる分野として2021年10月期より「デジタルサイネージ事業」と「デジタルプロモーション事業」を開始いたしました。

まずは新規事業である「デジタルサイネージ事業」と「デジタルプロモーション事業」をインクジェットプリント事業に並ぶ主軸事業として成長させるべく、取り組んでまいります。



今後の成長イメージといたしましては、ご説明してまいりました3つの事業を柱として「リアル領域」と「デジタル領域」を融合させたビジネスモデルへの転換にチャレンジしてまいります。

また、今後の当社のさらなる成長および企業価値の向上を実現させるにはM&A戦略が非常に重要と考えており、プロジェクトチームを編成してM&Aに関する各種調査を積極的に行い、実現に向けて具体的に計画を進めております。



当社のM&Aに関する基本戦略といたしましては3つの事業の拡大を軸に、顧客基盤の拡大、生産能力の拡大、エリア販路の拡大、付加価値ビジネスへの進出、この4点を基本戦略としながら、成長を加速できる企業とのM&Aを具体的に検討してまいります。

4. 株主還元

4 株主還元

©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に株主還元方針でございます。

株主還元方針



**株主への利益還元は経営上の重要施策であり
適切な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持継続**

	2021.10月期	2022.10月期
期末配当金	31円	31円 (予想)

©2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

22

株主還元方針といたしましては、経営基盤の強化を最優先とし、将来の事業展開と内部留保とのバランスを考慮の上、利益配分を実施してまいります。

2022年10月期におきましては、配当方針は期末配当の年1回を基本方針と定めており、現時点で当該基準日における配当予想額は31円でございます。

5. 参考資料



最後に参考資料です。

事業概要



- 企業理念** より良い働きを通じて全従業員の物心両面の幸せを創造し社会へ貢献しよう
- 事業内容** 販売促進用サインディスプレイの制作
屋外用大型サイン・広告の制作
建物の内装、インテリア用品の出力、制作
広告企画および制作に関する提案業務
デジタルサイネージソリューションの提案業務
EC運営の総合支援
webプロモーションの提案
- 代表者** 代表取締役社長 和田山 朋弥
- 設立** 1985年10月
- 資本金** 2億8千6百万円
- 本店** 大阪府大阪市西区
- 事業所** 大阪、東京、横浜、名古屋、福岡
- 従業員数** 正社員：173名（2021年10月末現在）
- 上場証券取引所** 東京証券取引所市場第2部（証券コード：7804）
- 上場日** 2019年7月24日

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.
24

こちらは、当社の事業概要を示しております。

企業理念は「より良い働きを通じて全従業員の物心両面の幸せを創造し社会へ貢献する」でございます。

企業のベースとして働いてくれるのは社員ということを中心に置きながら株主価値を最大限まで高めていきたいと考えております。

拠点紹介

拠点間で連携した営業・生産を実現しています。

大阪本店 (大阪市)
デジタルサイネージショールーム併設

東京本社 (東京都中央区)
デジタルサイネージショールーム併設

福岡営業所 (福岡市)

名古屋営業所 (名古屋市)

横浜ファクトリー (横浜市)

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved. 25

次に当社の拠点についてご説明いたします。主要拠点といたしまして大阪本店、東京本社、さらに国内最大規模のインクジェット生産体制を有する横浜ファクトリーでございます。大阪、東京にはデジタルサイネージショールームを併設しており、最新の機器をご覧いただけます。

名古屋営業所、福岡営業所は、一層の顧客開拓を進めており、将来的には主要拠点と同等の規模まで成長させる考えでございます。

インクジェットプリント事業生産体制

全国都心部の拠点に生産設備を配置。

24時間生産体制で短納期を実現しています。

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved. 26

こちらの写真は国内最大規模のインクジェット生産拠点である横浜ファクトリーの社内の風景でございます。

他の拠点も同様に都心のオフィスに多数のインクジェットプリンターを設置し、短納期のサービスを展開しております。

充実の設備で最適な商品を提案

**100台以上の生産機械によって
多種多様なサインディスプレイ製品を制作**

Mimaki 30U-553
フルカラーUV発色インクジェット印刷機

HP LK360
ラジエーションインク出力機

Epson P20050
水性インク出力機

Mimaki JFX500
フラットヘッドUVインク出力機

Fofora YLD
カラー印刷用マシン
ロールシート自動巻付機

Epson SB0650
写真インク出力機

EPI Vutek 5r
スーパーファインUVインク出力機

UV557320
UVインク出力機

Kongsberg XP
船尾巻マルチヘッドインクマシン

他にも、Mimaki UJV500 (UV機)、Mimaki JFX300 (フラットヘッド) 等、合計80台の出力機を保有しています。

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved. 27

次に「充実の設備で最適な商品を提案」として私どもが保有する設備の主要なものを記載させていただいております。設備の台数、種類は業界の中ではトップクラスでございます。

ご覧のようなインクジェットプリンターや加工設備を100台近く保有しており24時間生産体制にてお客さまへ高品質な商品を短納期でお届けするサービスを展開しております。

デジタルサイネージ事業

2つの業界に対して商品を展開しています

SOLUTION 01
販売促進向けデジタルサイネージ

デジタル棚

“デジタル棚”のコンセプトはサイネージを置くのではなく“棚を丸ごと動画にする”という発想です。まさに「動く商品棚」です。動画コンテンツの配信・運用まで行います。

SOLUTION 02
インテリア分野向けデジタルサイネージ

デジ窓

“デジ窓”は「世界の風景を運んでくる」をコンセプトに窓のないオフィスやカフェ、会議室に彩りと安らぎをもたらす新しいデジタルサイネージです。

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved. 28

デジタルサイネージ事業では、インクジェットプリント事業で得意とする「販売促進広告分野」と「インテリア分野」に向けて商品を展開しております。

免責事項



将来の見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

29

最後は、免責事項といたしまして将来の見通しに関する注意事項を記載させていただいております。

IRに関するお問い合わせ



<お問い合わせ先>

株式会社ビーアンドピー 経営管理部

Email: ir_bp@bandp.co.jp

<https://www.bandp.co.jp/ir/>

© 2021 B&P Co., Ltd. All Rights Reserved.

30

2021年10月期の決算説明は、以上でございます。最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。

この動画に関するご質問がございましたら、こちらに表示されておりますメールアドレスまでご質問をお送りください。

今後とも当社へご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。